

決算変化の理由		実績(集客)変化の理由	
(利用者減) (修繕費増) 平成29年度と平成30年度を比較すると、利用者数の減少による収入減及び修繕費の支出増により、経営は厳しくなっている。	(利用者減) (人件費減) ご利用者の減少によりサービス活動収益が減少した。 デイサービス理学療法士の退職により、機能訓練加算取得金額が減少し、人件費も減少した。	(利用者の体調安定による増) 例年冬場は体調不良者が増えるが、H30年度は体調不良者が少なく、インフルエンザ等の感染症も少なかった	(職員の努力増) 相談員による利用者状況のフィードバック及び空き情報の提供を密に行った。
(利用者減少) 毎年、利用人数の減少により収入減。	(利用率減少) 利用率の減少による収入減	(低介護度者増) 要介護度が高い方の利用が減っている。 また要支援者の利用が増えている。	(職員の努力増) 居宅介護支援事業所等への働きかけ(営業)により利用者を増やすことができました。
(利用率増加) 多くの加算は取得していませんが、利用者の人数を増やすことで収益を上げました。 登録者数は80名前後ですが、重複利用される方が多く、一日の定員が日によって30名を超える日もありました。 重複利用されるといことは、ご利用者がデイサービスへの満足度の表れかと思えます。職員が少ない中、協力し合い前年度よりも実績を向上させることができました。	(介護報酬改正減) (人件費高騰) (委託経費増) 介護保険事業収入が480万円減少に伴い、人権費の高騰で200万円の増額となっています。 事業収入の減少は介護報酬の改正によるものとみられ、人件費の高騰は継続雇用している職員の定期昇給及び賞与に当たります。 また、送迎に関して、一部業務委託しておりますが、委託料の値上げで60万円ほどの経費が掛かり収益率が悪化しております。	(重介護度者増) (短時間利用者増による減) (リハ担当退職による減) (競合激化による減) (施設老朽化による減) 介護度の高い方でケアする上で大変なご利用者の増加。 短時間ご利用者の増加。 常勤理学療法士の退職により、機能訓練を重視した方の新規契約先が減少した。 リハビリ重視型のデイサービスが近くに開設され苦戦。 競合施設の増加。 施設の老朽化。	(顧客満足度増) 当センターの基本方針の中に、「豊富なアクティビティを特色に」を目標に掲げ、アクティビティや行事を充実させ、多くの利用者を楽しみを見出すことができました。 介護度の要支援者、要介護者関係なく、参加できる行事を毎月ひとつは実施し、満足していただけたのではないかと思います。
(ライバル増加) 地域内にデイサービスを開業する所が増え、お客様の取り扱いや社会福祉法人以外は <b>グレーゾーンのニーズを答える事業所が増えた</b> 為そっちにお客様が流れてしまったからではないかと思う。	(稼働率増) 29年度における稼働率が平均で82%(28年度が75%と低い状況で28年度前半までその状況が続いていた)だったが、30年度は90%まで回復できた。	(低介護度者増) (重介護度者増) 要介護1の利用者が減り要支援1や要介護3以上の方が増え介助量が増えている。(更新により)	(営業時間短縮も変化少) サービス提供時間の短縮によりレスパイトニーズの利用者がやや他事業所へ移る事があったが、ほぼ変わりはない。
(利用者増加) 開設2年目を迎え、稼働率が大幅にアップした。	(外部居宅の利用者増) 外部の居宅からの依頼が増えている。	(利用者増) 平成30年度は開設2年目を迎え、利用者延べ人数が大幅に増加した。	(活動充実による増) (広報活動による増) お楽しみ昼食やお手洗い活動などのメニューを充実させました。その取り組みの様子を毎月発行しているリーフレットや新聞にて各方面に発信したことで、多くの方に選んでいただく事が出来たように思います。
(新規利用者の減少) (入院者の増加) 新規利用者が少なかったことと、体調不良で入院される利用者が多かった。	(加算取得増) (利用者増) 外部からの機能訓練指導員を招き加算を取った。 <b>専門的なリハビリを取り入れたことにより、利用者の増加につながった。</b>	(活動充実による増) 平成30年度は、活動内容をより充実させており、また、こまめにケアマネや利用者宅を訪問(入院中は見舞い等)を行い、ケアマネや家族の信頼を得ていた。	(低介護度者増) 要介護1までの軽度者が増えた。
(提供時間の変更) 職員の働き方の改善をはかる為、提供サービス時間の変更あり、収入減となっている。7~9時間⇒6~7時間 改定時の報酬単価減に加え、加算面で増となる事もなく全体的にマイナスとなっている。		(異動の影響減) 平成29年度から平成30年度にかけて管理者の変更、職員の異動があり、平成30年度においては、新規利用者様の積極的受け入れが事実できなかったのが利用者数減少の要因と考えられる。	(利用者減) (利用率増) 死亡・特養入所等による減少がみられたが、新規利用者の獲得ができなかった。 既に利用している方の増回等で維持している現状。
(人件費負担増) 収益を見込んで、人件費をかけたが、予定より収益が上がらず、経常増額差額を押し下げた要因となった。		(利用者減) 入所・入院・感染症等が多かった為だと考えられる。	(重介護度者減) 介護度3~5の利用人数が減少。
(利用者増) (介護報酬改正増) (人件費減少) 収益に関しましては、利用者数の増加や介護報酬の改正などにより増収となっております。費用に関しましては、職員の異動などにより人件費が一時的に減少した関係で減少しております。		(ヘビーユーザーの減) (人員不足) 日数の多い利用者の死去 人員不足による営業力の低下	(短時間利用増による減) 短時間デイ(パワリハ)が増えたことにより、長時間デイの新規獲得が難しくなり人数が減ったと思われる。
		(外部取引の増) 同一法人以外の事業所との取引が増大したため。	
		(利用者減) 当施設へ入所、死亡	

経営・運営面について

<p>(新規利用者確保安定) (職員安定) 利用者の入替等はあるが、安定して新規利用者が集まっている。 この数年は職員の退職もないため</p>	<p>(職員確保に苦労) 人材が定着しない為、稼働率維持が難しく、結果としてサービスの低下、収益率の低下につながっている。 介護サービス事業所が多すぎて、人の奪い合いになっている。</p>	<p>(人件費圧迫) (経費増加) (職員獲得に苦労) (利用者減少) 支出面では、人件費や食材費の高騰や消費税増税などににより増加しています。人材確保面は、求人募集をかけるもなかなか採用に至りません。集客面では、利用者が高齢になり、新規利用者と共に終了ケースも増えています。</p>	<p>(職員獲得に苦労) リハを取り入れ好転はしたが、人材の確保が厳しいため利用者を増やしたくても限界がある。</p>
<p>(ライバル競合による利用者減) 年々利用者が減ってきている。 同市内にデイサービス、デイケアサービス事業所が増えている。</p>	<p>(ライバル競合による利用者減) 小規模のデイやお泊り型、長時間滞在型も増えたので、認知症対応型通所型のニーズが減ってきている</p>	<p>(ライバル競合による利用者減) 市内に通所施設が多いため。</p>	<p>(ライバル競合による利用者減) デイサービスセンターの増加による過当競争</p>
<p>(入所・入院等の影響) 入所・入院・感染症等が多かった為だと考えられる。</p>	<p>(報酬改定の影響) (利用者の減少) (人件費圧迫) 処遇改善加算が始まった介護報酬改正の時期より収入が激減している。また、利用者の減少も重なり収入減。支出面は介護職員の常勤人数が4人体制のまま業務をしているため負担増。(給与支出の削減も行っていない)</p>	<p>(ライバル競合による利用者減) 市内でも通所介護施設が増えており、利用者の取り合いが起きている。</p>	<p>(異動による質の低下) スタッフの異動に伴い、ケアマネとの繋がりが薄くなってしまった。また、活動内容も質が落ちたように思われ、令和元年度についても、稼働率は下降気味である。</p>
<p>(ライバル競合による利用者減) 当事業所・他事業所のケアマネージャー、地方自治体との連携を密にし行動しているが、とても苦戦している。 他事業所との競合</p>	<p>(ライバル競合による利用者減) (質の向上で頑張る) 集客に関して、利用者数が年々減少しております。理由としましては、周辺に競合するデイサービスが増えた事が考えられます。サービスの質が下がらないよう、職員の研修や、資格取得支援を行い、また利用者が喜ぶ様々な企画を考えて、実施しておりますが集客面で苦戦しております。</p>	<p>(ライバル競合による利用者減) 市中心部であるがために事業所が増え、集客面で苦戦している。</p>	<p>(質の維持のため経費増) (人件費圧迫) サービス支援のQOLを維持するに当たり、前年度より経費が割増しとなっています。収入に対する支出の割合が年々増加しています。また、加算に関する事務量も年々増えており、IT化を図り効率を上げておりますが、実際追いついておりません。結果的に人件費の高騰を招いています。</p>
<p>(ライバル競合による利用者減) (入所・入院等の影響) 地域により様々なデイサービスが増えている。利用者の体調不良による休止や入所、ショートステイへの移行が多い。</p>	<p>(新規利用者減) (職員確保に苦労) 集客としては、新規の方はいるものの、なかなか登録数が増えない状態。人材確保も難しく、苦戦している状況。</p>	<p>(業務体制変更の影響で減) 今年度よりフロアの模様替え・業務体制を一新したため、職員の動きの形が整っておらず昨年度並みの利用者数の受け入れが困難となっている為。</p>	<p>(質の維持のため経費増) (人件費圧迫) サービス支援のQOLを維持するに当たり、前年度より経費が割増しとなっています。収入に対する支出の割合が年々増加しています。また、加算に関する事務量も年々増えており、IT化を図り効率を上げておりますが、実際追いついておりません。結果的に人件費の高騰を招いています。</p>
<p>(ライバル競合による利用者減) (入所・入院等の影響) 地域により様々なデイサービスが増えている。利用者の体調不良による休止や入所、ショートステイへの移行が多い。</p>	<p>(利用者増) (人件費圧迫) 収入面を考慮し、ご利用者は増加傾向だが、それに伴い職員の残業代が増加してしまい支出面では苦戦している。</p>	<p>(人件費圧迫) 現状の職員全てが正規雇用である為、職員の入れ替わりがない反面、人件費はかなり高い状況となっている</p>	<p>(ライバル競合による利用者減) (人件費圧迫) ・近隣の競合施設の増加により新規契約先が増えない。 ・退職職員の補充がスムーズに行かない。 ・職員の非常勤比率が低く人件費率が</p>
<p>(ライバル競合による利用者減) 短時間デイ(パワリハ)に世間が流されている。</p>	<p>(報酬改定の影響) 収入面については、報酬自体が減っていること、総合事業の方が多くなっていることだと思います</p>	<p>(人件費圧迫) (職員獲得に苦労) (低介護度者増) 介護職不足による職員確保が困難になっていると伴い、最低賃金の引き上げ等による人件費の高騰もあり、利益を圧迫している。また、年々サービス利用者の平均介護度も軽くなっている傾向にあり、収入面でも厳しくなっている。</p>	<p>(ライバル競合による利用者減) (職員獲得に苦労) 複数の新規事業所の参入による、利用者、職員の流動があり、いずれも確保が難しい。</p>
<p>(利用終了者増) 前年に比べ辞退者が多い</p>	<p>(稼働率低迷) 収入面で、稼働実績、定員数に対して50%を下回っている状況</p>	<p>(職員獲得に苦労) 介護職員が離職により不足している。</p>	<p>(職員確保に苦労) 人材確保、募集を掛けても応募がなく人材確保に苦慮している。</p>
<p>(報酬改定の影響) (人件費圧迫) 前回改定での報酬ダウンの影響は大きい。人材育成のため人員配置を厚くしているが、経営的には非常に厳しい。</p>	<p>(職員負担増) 実績には満足していますが、少ない職員でのサービス提供のため職員にはかなりの負担を掛けてしまった。</p>	<p>(人件費圧迫) (職員獲得に苦労) (低介護度者増) (修繕費増) 稼働率が高くて、軽度利用者(要介護1・2及び要支援)の利用割合が非常に高くなっている事、報酬単価が下がっている事などから収入減。H27年までは軽度利用者の割合が40~50%、要介護3以上が50~60%だったが、H28から逆転し、特に以前50%程度だった介護3が10%を切っており、介護3~5の割合が15%、軽度利用割合が85%の状況であるため収入は伸びない。一方、人件費は上昇、施設も築20年経過で設備等の修繕などで経費が嵩む状況である。</p>	<p>(ライバル競合による利用者減) (修繕費増) 新設の事業所に利用者様が流れる傾向にあり、ケアマネを通して集客に努めているが、新規利用者様を獲得できず、反面経年劣化による修繕費等が増大している。</p>
<p>(職員確保に苦労) 人材確保は紹介会社に依頼することが増えた。</p>	<p>(人件費圧迫) 事業所規模に対して人件費率が高く支出面が厳しい。</p>	<p>(利用者減) 夏以降、近隣施設(特養、ケアハウス等)に入所する利用者が急増し、利用者数が激減した。</p>	<p>(職員確保に苦労) 人材の確保にとっても苦戦を強いられている。</p>
<p>(職員確保に苦労) 人材確保において、交通手段の問題で採用に至らないケースがある。</p>	<p>(事業としては成り立たないが・・・) 事業所の形態(設備)、ご利用者の重度化等の状況により、事業収支としては全く成立していないが、<b>社会福祉法人の使命</b>として事業を継続している。</p>		

地域貢献について		
要支援の利用希望者を拒まず、悪化しないように機能訓練を実施していく。地域包括支援センターと協力して総合事業にも力を入れていく。	・在宅介護支援センターと連携し <b>介護予防教室</b> に年6～7回参加している。 ・地域へ開かれた施設を目指し特養・在宅介護支援センターと合同で <b>地域開放日</b> を開催している。 ・地域の <b>道路清掃活動</b> に参加している。	地域ボランティア導入による地域の施設作り <b>地域外出支援</b> をデイサービスとしても、サポートして行きたい。
無料 <b>介護相談</b> 等(本部)	近隣地区の自治会に参加し、 <b>PTIによる予防運動</b> など勉強会を開催している。	地域ボランティアの受け入れや、地域の小、中、高学生の職場体験や、学習の受け入れを行っている。
毎年 <b>夏祭り</b> (高齢者部門全体)の実施。 <b>ボランティアの受け入れ</b> を毎月1組以上しているが、次年度以降はさらにボランティア方の受入を多くし、開かれたデイサービスにしていきたい。	月1回、第二日曜日は <b>認知症カフェ</b> を開催している。(場所提供含む) 施設のイベント時に地域のボランティアの方々をお招きし、劇や演奏を披露頂いている。 独居世帯の方々、老老世帯を中心に <b>配食サービス</b> の実施。	市内の中学校生徒の <b>職場体験</b> や <b>福祉体験</b> を毎年積極的に受け入れていきます。 施設近隣の演芸ボランティアや傾聴ボランティアの受入れもおこなっています。
毎年2回地域住民と一体になって <b>地域の美化活動</b> を行っております。また、毎年1回 <b>救命講習</b> を行い地域住民の参加を呼び掛けています。	介護保険制度と正しい使い方の説明会(地域住民へ)	現在は特に行っていません。お手伝い活動を通して何か行えないかを検討しています。
<b>オレンジカフェ</b> の導入	<b>介護者教室</b> 、 <b>地域清掃</b>	<b>災害時の高齢者の受入</b> (入浴含む)予定
毎年12月31日に地域の単身高齢者を対象に無料で <b>おせち料理配食サービス</b> を実施している。	夏祭りでの作品(手芸品)の <b>バザー</b> や市文化祭への <b>作品出展</b> など	・送迎車両を使用して、地域住民(高齢者)を対象に <b>買い物バスツアー</b> を実施している。
公民館における <b>文化祭への参加</b>	<b>ボランティアの受け入れ</b> や活動の場の提供 市内小中学校生徒の受け入れ	<b>買い物支援</b> を、送迎担当運転手が行っている。
法人として地域防災訓練の実施(主催)のほか、各種福祉関係行事や <b>地域のお祭り等に積極的に参加</b> ・支援しています。	デイサービス <b>施設の地域への貸し出し</b> や <b>介護教室</b> の開催	母体の特養で入所者、利用者、地域の皆様を対象とした、 <b>相撲部屋力士とのふれあい交流会</b> を来春企画予定。
法人での取り組みはありますが、デイサービスのみの取り組みは現在行っていません。今後どのようなニーズが地域にあり、デイサービスで実施できる活動があるのか検討したいです。	・認知症対応型サービスの運営推進会議の開催(年2回)・・・利用者家族、市の職員、自治会長、民生委員等参加し、 <b>認知症について意見交換</b> を行っている。 ・ <b>ふれあいセンター祭り(年1回)</b> ・・・毎年9月の最終土曜日に開催、大洲デイサービスセンターではカレーライス販売を実施。購入者にプレゼントを渡している。 ・大洲防災公園の <b>環境美化活動</b> (年に数回)・・・大洲防災公園には開設当初より季節を感じるプログラムの実施の為に役に立たせて頂いている。還元活動として、利用者と一緒にごみ拾いを行っている。	<b>買い物ツアー</b> の実施。(買い物難民のための買い物支援) デイサービスの建物を研修や発表会の会場として使用したり、行事などをケアハウスを含む <b>地域住民公開</b> することがある。
<b>地域見守り事業</b>	制作活動を中心に趣味活動を広めていく。	<b>街づくり協議会</b> への参加
<b>認知症予防カフェ</b> として、地域のお年寄りに月1回集いの場を提供している。食事、おやつを提供等(有料)。	デイサービス <b>施設の地域への貸し出し</b> や <b>介護教室</b> の開催	近隣小学校へ <b>セーフティウォッチャー</b> (下校時)
<b>認知症サポーター養成講座</b> (キャラバンメイトとして参加) <b>中学校出張講義</b> <b>認知症カフェ</b>	常時、市と協定を結んでいる <b>見守りネットワーク</b> の一環として、送迎時には高齢者等の見守りを行っています。日中帯の送迎車両が空いている時間帯に <b>外出支援サービス</b> 等の活用を考えています。	
<b>認知症カフェの協力</b> や、老人会で小まねっこの <b>講師派遣</b> を介している。	・小中学生の <b>体験受入</b> ・ <b>防犯パトロール</b> の協力	
独居や高齢者世帯の方を個別外出として優先的に近くのスーパーへ連れ出していく等している。	・法人として、地域自治会と連携して <b>買い物支援</b> を行っている。 ・ <b>災害時に、利用者宅訪問</b> 、連絡調整等をする。(生存確認・状況把握)	
地区の福祉祭り等に <b>生活相談員</b> や <b>看護師</b> を派遣し、創作活動や体操講師を行っています。	・各地区の <b>健康サロンへの参加</b> 、協力。	
地域包括支援センターや近隣のケアマネジャーとの連携で、 <b>困難事例の受け入れ</b> を積極的に行っている。	・ <b>介護予防教室</b> やお <b>元気サロン</b> の開催により、地域に向けた健康づくりのお手伝いを行いながらデイの宣伝をしています。	
地域貢献の取り組みはデイサービス単独では「人」の部分で難しい為、法人全体として取り組んでいる。	・ <b>RUN伴</b> 2019ちばin旭市に、ご利用者、職員協力 ・ご利用者の送迎時、車中から <b>地域防犯パトロール</b> を兼ね走行している	
地域 <b>行事への参加</b> 等を行っている。	・ <b>認知症カフェ</b> の運営 ・松戸市通所型「元気応援くらぶ」への <b>講師派遣</b> (法人パートナー講座) ・ <b>夕食サービス</b>	

意見等

<p>認知症加算の算定基準である<b>認知症高齢者日常生活自立度の確認</b>先が担当ケアマネジャーであり、ケアマネジャーが情報確認を誤ると過誤となるケースがある。<b>介護保険証などへ一括記載</b>頂けると確認漏れがなくなると思います。</p>	<p>・機能訓練加算など諸加算の<b>取得条件を緩和し</b>多くの施設が加算を取得しやすいように工夫して欲しい。          ・多くの職員の処遇改善が図られるように<b>介護職員処遇改善加算及び介護職員等特定処遇改善加算は、基本報酬に組み込んで欲しい。</b></p>		
<p>働く職員も年々高齢化してきているため、若い人材の紹介が欲しい。  <b>デイサービスのレクリエーション指導をしていただきたい。</b></p>	<p>台風15号及び19号、その後の大雨被害時には、救援物資をいただきまして誠にありがとうございました。今後も各施設との連携調整機関として、宜しくお願いいたします。</p>		
<p>定期的に見直しがされてきたが、めまぐるしく情勢が変わると共に、私達に求められるものも多様化される時代になっています。今後の介護報酬改定に向かい全職員が十分に介護保険を理解し対応して行きますが、常に情報が直近で、質問事項を受付する事が難しく、理解するに困難を要しています。</p>	<p>加算に頼る運営は、実地指導時に返戻等が多い事業所が相当数ある事を考えると、運営規定をしっかりと守る事がベースで、<b>基準単価を上げる努力がより一層重要</b>と考えます。</p>		
<p>中重度加算やADL加算等、<b>算定案件が厳しく</b>、取り組みを行っていても加算が取れないことが多い。</p>			
<p><b>算定しやすい加算であってほしい。</b></p>			
<p><b>管理者や生活相談員向けの研修</b>を行って頂いておりますが、引き続き継続して頂きたいです。<b>介護保険の加算等</b>が複雑になってきておりますので、<b>研修内容に入れて頂きたいです。</b></p>			
<p><b>介護保険加算要件が複雑で分かりにくく、取得の為の事務作業が煩雑</b>であると感じます。</p>			
<p><b>介護保険加算要件が複雑で分かりにくく、取得の為の事務作業が煩雑</b>であると感じます。</p>			
<p>介護福祉士の比率で決まる<b>サービス提供体制強化加算</b>などは、<b>無資格の新人の育成を阻害</b>するので、<b>絶対数配置で評価</b>するようにして頂きたい。書類などの手間も多く、今の<b>制度はもっと簡略化が必要</b>だと思う。改訂の度の単価切り下げもいい加減にして頂きたい。  <b>処遇改善加算</b>は紐付きなので経営圧迫要因になり、人件費構造もおかしくなってしまう<b>職種間の不均衡が発生している</b>ので<b>見直してほしい。</b></p>			
<p><b>加算要件が厳しい</b>うえに、将来的に<b>要介護1、2の人が総合事業に組み込まれたら経営は難しい</b>です</p>			
<p>①<b>送迎について、サービス提供時間として算定</b>できるようにならないか？送迎もサービスの一環であり、記録も求められているのに、算定できないのはどうなのでしょう？</p>			
<p>・<b>要支援者の入浴希望が増えているが、報酬に反映されてなく</b>、人的な手間と物品費がかかることから、受入れについて悩むところ。          ・<b>個別機能訓練を実施しているが算定の要件が厳しく</b>職員の体制確保が困難で、サービスの継続が難しい。</p>			